

目的は・過去に起きた災害時の教訓から、防災活動は普段から自身を守る備えをしておく事や日常における地域のコミュニティーが大切です。「自助」の取り組み方と地域を守る「共助」をみんなで知っておく事を計画の基本とします。



1. 「自助」と「共助」のとらえ方と「公助」について

1) 自助・平時の活動は「防災対策」(減災のために3日間は自力で)

お家の安全	非常時持出袋の用意。 コロナ禍で準備が増えた。	タンスが倒れてこない? ドアはあく? ガラスでケガをしない。家族緊急連絡方法。
水食料備蓄	最低3日分×人数の食料用意。 水は1人分4L×3日分の用意。	緊急避難所はクラッカーの備蓄がある。 トイレ用の水準備。
暖房や電気	非常電源の確保(発電機や車のバッテリー)、対流型ストーブなど	野外だと七輪で炭やき等。 LEDランタンorライト、電池、携帯充電器

2) 共助・災害時の種類と活動は、「要配慮者と助け合い」

地震(火災) 停電、水道止	自宅が倒壊した。火災が近づいている。トイレが使えない	可能な限り自宅待機が望ましい 要配慮者・1人高齢者、障がいのある方
土砂災害	山が崩れて玄関が埋まった 土石流が流れて危険	危険が及ぶ場合は、一時避難所や質避難場所など安全な場所に移動する。
川の氾濫	豊平川が危険水域を越えた マンホールから水があふれる	危険な場合指定避難所などへ移動するか、親戚やお知り合いの方の所へ身をよせる。
雪害、台風	雪で屋根がつぶれた 強風で屋根が飛んだ	自宅が使えない場合、指定避難所へ移動するか、お知り合いや親戚の方へ身を寄せる。
町内会対策本部	南警察署裏に対策本部(テント)	避難所運営と自宅避難者の情報収集を行う

3) 公助・「避難所体制」「緊急備蓄品」「食料品支援等」

1) 指定緊急避難場所	緊急時には学校管理者が鍵を開けますが、市職員や住民が早く到着した場合は暗証BOXより鍵の取出しができます。避難人数に限りがあります。	<p>山鼻南小学校(地震×) 山鼻中学校・柏中学校 幌南小学校 伏見小学校・南小学校 山鼻福祉センター 山鼻町づくりセンター 伏見稻荷神社 豊成支援学校</p> <p>※コロナ禍の場合、各学校での受入人数は150人前後です。 ○いざというときに頼れる知人、友人がいる事が大切です。</p>	
2) 指定避難所 基幹・市立小中学校 地域・公共施設・寺・神社	中央区対策本部と施設管理者が必要と判断した場合に開設します(右の施設参照)		
3) 一時避難場所 公園やグラウンドなど	地震発生時に一時的に身の安全を確保する場所です(冬は出来ません)中島公園・旭山公園や近所の小公園		
4) 要配慮者2次避難所 福祉避難所・高齢者施設・障がい福祉施設	指定避難所での避難生活が困難な要配慮者が、避難所への避難後に二次的に避難する場所。受入調整がある。		

2, 災害が起きた時どこに逃げる（緊急避難所は次の通りです）

1) 指定緊急避難場所	2) 指定避難所	3) 一時避難所
災害から身を守る為緊急的に避難する場所。災害の種類ごとに学校や公園などを指定。	災害で自宅に戻れなくなった被災者が一時的に滞在する施設。	地震発生時に避難が必要な場合、一時的に退避し身の安全を確保する場所。グラウンドや公園など
① 震度6弱以上で開設 ② 災害の種類毎に指定 ③ 避難人数に制限がある	① 基幹は小中学校など ② 区長や市長が判断と震度6以上が発生した場合に開設 ③ 地域の公共施設（寺・神社等）は行政が必要と判断した場合開設	要配慮者の二時避難所は（福祉避難所・高齢者施設・障がい福祉施設等）、自己判断避難はできない



地震防災マップや洪水ハザードマップで確認してね

避難対象となる災害の種類を“O・×”で表示しています（最寄りの学校で確認してね）

3, 公助までは自力で乗り切ろう（3日分の食料と水の確保）

種類	自力で対応できることは	普段からの準備は
地震	<ul style="list-style-type: none"> 住めない場合は避難所へ（避難時はガス栓閉め、ブレーカー落とし） 車の中に避難する方法 庭にテントを張る 避難通路の確保（玄関等） 	<ul style="list-style-type: none"> 家族で避難先を共有しておく 荷物の下敷きにならない工夫 車のガソリンいつも多めに 棚やタンス扉の固定化 部屋の配置見直し
停電	<ul style="list-style-type: none"> 車のバッテリーで代用 携帯電話は避難所で充電 キャンプ用品でしのぐ ろうそくとマッチ 	<ul style="list-style-type: none"> 懐中電灯等の用意 電気を使わないストーブ モバイルバッテリー準備 発電機の用意 毛布や防寒服の準備
水	<ul style="list-style-type: none"> 地震は浴槽に水をためる 山鼻川から取水する 公共公園から取水する 1人1日4L×3日分が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ペットボトルの水用意 水用のポリタンク用意 池や小川を探しておく
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 簡易の段ボールトイレを作る（1日4回×家族人数分必要） 市販の非常用トイレ購入 	<ul style="list-style-type: none"> 黒いゴミ袋、段ボールの準備
食事	<ul style="list-style-type: none"> 空いている食料品店にすぐ行く 冷凍、冷蔵のものから手を付ける ご近所で協力し合う 	<ul style="list-style-type: none"> カセットコンロ、ボンベ 非常用携行食の準備（缶詰等）

○非常用持ち出し袋を準備しよう。（冬場とコロナの対策が追加されます）

貴重品等	灯り、電気	食料、水(3日分)	暖房	その他
現金、カード 通帳、保険証 	携帯電話、ナイフ、バッテリー 携帯ラジオ LED 照明器具 	缶詰 ペットボトル（水） 	毛布、アルシート 防寒具（コート） 靴、手袋、下着 雨具（カッパ） 	マスク、体温計、薬、 除菌用品、お薬手帳、軍手 ロープ、ヘルメット コップ、歯ブラシ タオル